

THE BOOK REVIEW PRESS

2020-10-10

図書新聞

3466号

〒189-0075 東京都新宿区高田馬場3-13-1
1-36-0071 東京都江東区豊洲8-25-12
TEL:03(5387)3918 FAX:03(5387)3919
編集室 (454室) 1-48野13200E
〒112-8640 東京都文京区湯島1-18-2-673481

定価 300円
(本体273円)
発行 武久出版株式会社

【出版最新ニュース】クロスカルチャー出版
庄司俊作著『格差・貧困の社会史』が図書新聞
2020年10月10日号に掲載されました。

庄司俊作著『格差・貧困の社会史』(クロスカルチャー出版)を読む

▼庄司俊作著『格差・貧困の社会史』7・20刊、A5判一八〇頁・本体二〇〇〇円・クロスカルチャー出版

格差や貧困という位相に視線を射し入れて、「日本の歴史と社会はどのように見えるのか」と述べていく本書は、大胆といえは、やや誇張した言い方になってしまいが、斬新な入り口を開いているといいたい気がする。様々な資料を閲覧しながら戦前期から九十年代までを通史して行くの線が、著者はけっしてひとつの傾向や視点に固執して行くのではなく、「複眼的な視点で問題をとらえて」いくのである。それは、次のように述べていること、著者の視線の置き方が示されているといえる。

斬新な入り口を開いている

果たして鬱屈した状況に風穴は開けられるか
植田 隆



「日本型雇用システムをめぐるのは1980年代以降、とくにバブルがはじけた93年以降、時代の変転が明らかとなり、派遣、パート、契約社員等の非正規雇用の増大です。(略) 大学を出ても正社員での就職は難しくなり、結果的に増加する非正規は第2次安倍政権誕生後6年間で約300万人増え、2、152万人(38%)になりました(2018年)。非正規の年収は多くて年収300万円以下であり、年収100万円代で働く者も少なくありません。年収200万未満の非正規は1、603万人で、非正規全体の75%です。」

なってきたが、それから二十年という長い時間が経過している。しかし様相はよくなっているわけではなく、著者が述べているように悪化の道筋を辿っているといっている。だから著者は、「格差・貧困問題としては、とくに女性と若者の間で非正規が増えたことが重要だ」といっているのだ。

わたしが、本書の中でこの関心を向けたのは、安岡章太郎の『僕の昭和史I』(84年刊)を引きながら、「戦時期には、体制が変われば戦後改革と戦後民主主義につながり、格差は正平等、民主主義を生み出す要素が新たに各所において装填されました。日本の戦時期は戦争とともにそれを重なるようにした歴史過程を含んだ時代でした」と述べていることだ。これは戦時下の配給制度を安岡が触れていることから援用しているのだが、著者の考えに徹底していかことになるのかからなら、わたしは、時代(時間)性というものは、切断されたり変容されたりするものではなく、絶え間なく連続したものだと思えるべきだと思っている。つまり戦時下と四五八年以降は連続した時間性を有していると考えざるべきなのだ。この国の為政者たちはアジアにおけるこれまでのことを戦前期と切断して隣国に接しているから軋轢が絶えないことを忘れてはならない。

(評論家)